

JavaScript

配列 基礎

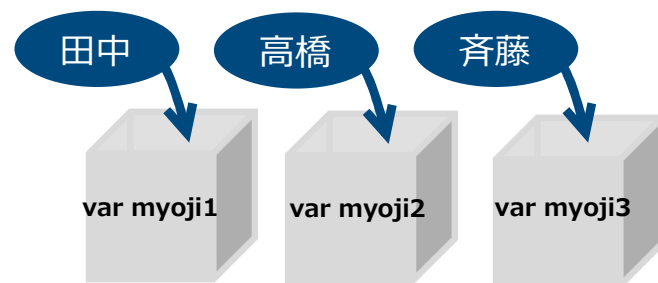
13 時間目

配列とは、
複数の文字や数字などを
1つに格納して管理するもの

配列のイメージ

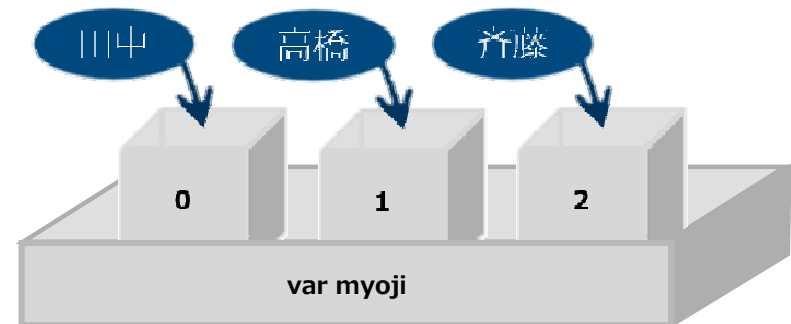
通常：別々の変数として管理

```
var myoji1="田中";  
var myoji2="高橋";  
var myoji3="斉藤";
```



配列として一括で管理

```
var myoji =["田中","高橋","斉藤"];
```



arrayとは

解説

格納する箱の番号は、プログラミングの性質上必ず0から始まります。

箱に入れられた「田中」「高橋」「斉藤」を

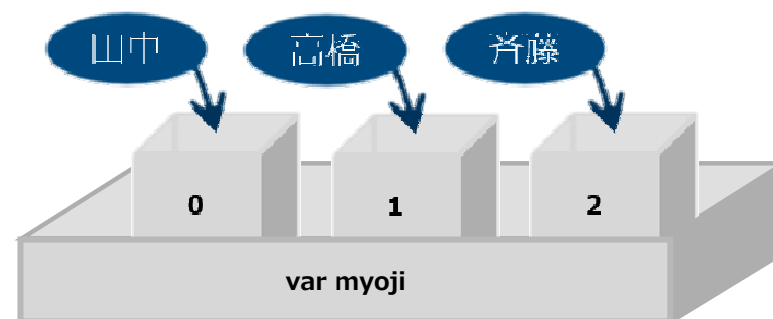
value（又は値） と呼びます。

「箱と値を合わせて」

element(又は要素) と呼びます。

箱の番号「0」「1」「2」を

key（又は添え字） と呼びます。



配列の書き方

解説

配列には、2通りの書き方があります。（意味は同じです）

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji =["田中","高橋","斉藤"];  
document.write(myoji);
```

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji =new Array("田中","高橋","斉藤");  
document.write(myoji);
```

配列の書き方

解説

配列で格納した後に、document.writeで表示することが出来る

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji =["田中","高橋","斉藤"];  
document.write(myoji);
```

← → ↺ 🏠

田中,高橋,斉藤

配列の書き方

解説

格納されている箱の番号(=key=添字) を記述することで、特定の値だけ表示することも出来る。

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji =["田中","高橋","斉藤"];
```

```
document.write(myoji[1]);
```

高橋が格納されている箱の番号 1 を
記述することで、高橋だけを表示できる。

← → ↺ 🏠

高橋

要素の削除(delete)

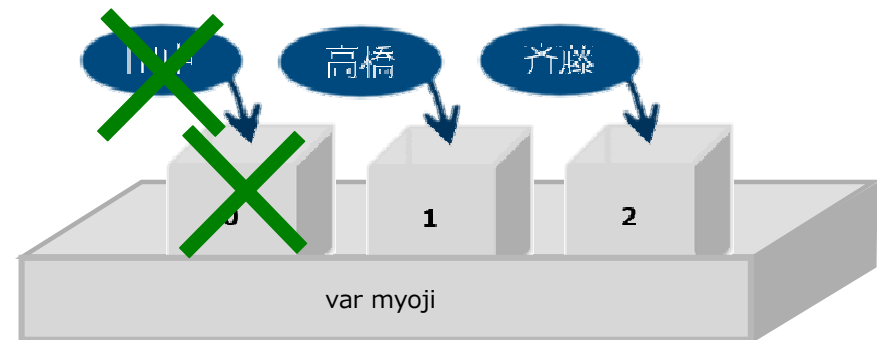
解説

配列の指定した要素は、deleteを使って削除することができます。

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji = ["田中", "高橋", "斉藤"];
```

```
delete myoji[0];
```



要素の削除(delete)

「**田中の要素**」を削除した後に、ブラウザに表示してみよう

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji = ["田中", "高橋", "斉藤"];
```

```
delete myoji[0];
```

```
document.write(myoji);
```

← → ↺ 🏠

,高橋,斉藤

「田中の要素」が削除されたので、
0の箱があった要素部分が、このように
何も表示されない。

要素の削除(delete)

「**田中の要素**」を削除した後に、ブラウザに表示してみよう

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji = ["田中", "高橋", "斉藤"];  
delete myoji[0];  
  
document.write(myoji[0]);
```

← → ↺ 🏠

undefined

「田中の要素」が削除されたので、
0の箱だけを指定すると、
undefinedと表示される。

要素の追加

解説

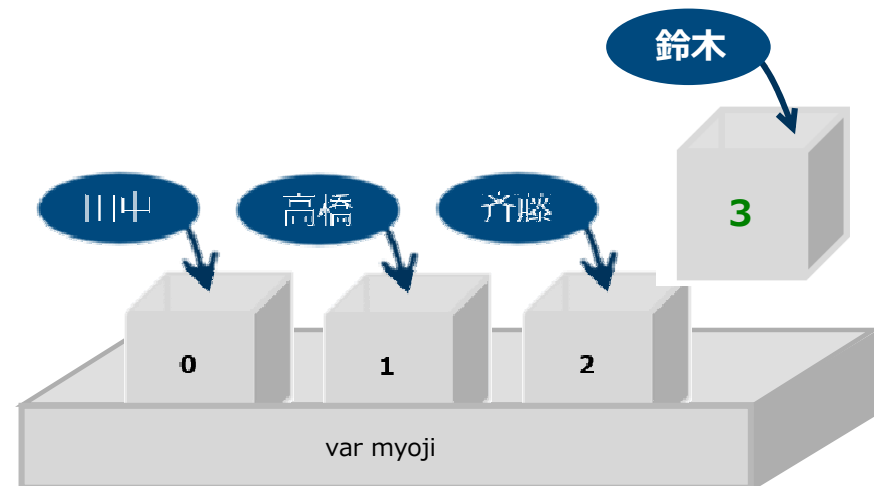
一度、書き終わった配列に、要素を追加することが出来る

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji = ["田中", "高橋", "斉藤"];
```

```
myoji[3]="鈴木";
```

箱の名前は、格納した瞬間に
次の番号（この場合は「3」）になる



要素の追加

追加した「**鈴木**」をブラウザに表示してみよう

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji =["田中", "高橋", "斉藤"];
```

```
myoji[3]="鈴木";
```

```
document.write(myoji);
```

← → ↺ 🏠

田中,高橋,斉藤,**鈴木**

値の更新

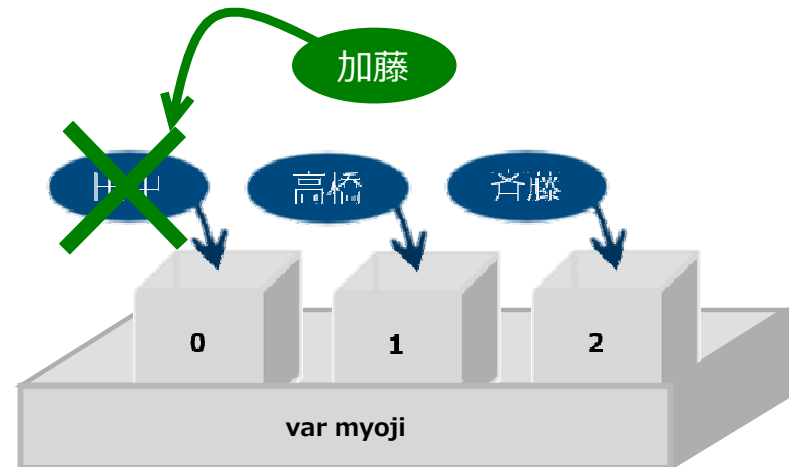
解説

既に配列に格納されている値を更新することも出来ます。

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji = ["田中", "高橋", "斉藤"];
```

```
myoji[0]="加藤";
```



値の更新

更新した「**加藤**」をブラウザに表示してみよう

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji =["田中", "高橋", "斉藤"];
```

```
myoji[0]="加藤";
```

```
document.write(myoji);
```

← → ↺ 🏠

加藤,高橋,斉藤

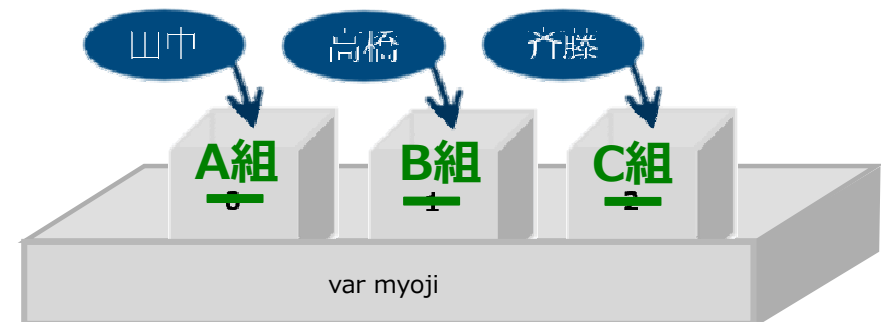
連想配列

解説

配列のkey(=添え字=箱の名前) には、元々振られている数字以外に、名前を付ける事が出来ます。

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji = {"A組": "田中", "B組": "高橋", "C組": "斉藤"};
```



連想配列

箱の名前を変えた後に、「**田中**」だけをブラウザに表示してみよう

script.js(JavaScriptファイル)

```
var myoji = {"A組": "田中", "B組": "高橋", "C組": "斉藤"};  
document.write(myoji["A組"]);
```

← → ↺ 🏠

田中

A組というkey(=添え字=箱の名前)に入った田中が表示された。